



平成 30 年度

推薦図書二水 50 選

石川県立金沢二水高等学校図書館

	書名・著者名	解説・紹介	発行所
生 き 方	西 田 幾 多 郎 －生きることと哲学－ 藤田 正勝 著	石川県出身の哲学者西田幾多郎。今なお国内外で新たな思考を啓発しつづける西田哲学の「真に生きる」、「世界の中で生きること」と直接にむきあったその思考の軌跡へと導く案内の書。	岩波新書
	悩 む 力 姜 尚中 著	人生のさまざまな悩みについて、自身の学識と経験を踏まえ、文豪・夏目漱石や社会学者・マックス・ウェーバーを題材に「悩むことの意義」を描いている。悩むことが決して無駄ではなく、それこそが生きる力に繋がる。	集英社 新 書
	旧約聖書を知っていますか 阿刀田 高 著	西欧文化の原点の一つである『旧約聖書』の世界を、ユーモラスにかつ現代的感覚で解説した阿刀田式古典ダイジェスト。	新潮文庫
	キ ン グ 牧 師 －人種の平等と人間愛を求めて－ 辻内鏡人・中條猷 著	アメリカ公民権運動の指導者として、つねに非暴力抵抗運動の先頭に立って闘い、志半ばで凶弾にたおれたキング牧師。人間愛に満ちた社会の実現をめざし、39年の生涯を燃焼した、その足跡をたどる。	岩 波 ジュニア 新 書
	こ こ ろ の 処 方 箋 河合 隼雄 著	あなたが世の理不尽に拳を振りあげたくなったとき、人間関係のしがらみに泣きたくなったとき、トラブルに立ち向かう秘策を与えてくれるだろう。	新潮文庫
	高校生のための哲学入門 長谷川 宏 著	「自分とはなにか」「生きることの意味とは」といった問題に、「自分と向き合う」「人と交わる」「社会の目」「遊ぶ」「芸術を楽しむ」等の切り口から、深く思考することで迫る一冊。人生を真に楽しむための手引き書。	ちくま 新 書
歴 史	日 本 の 誕 生 吉田 孝 著	ヤマトを本処に発展した「倭」－「日本」の王権は東アジア世界の歴史の潮流の中でどう展開したか。現代につながるテーマの考察。	岩波新書
	武 士 の 家 計 簿 －「加賀藩御算用者」の幕末維新－ 磯田 道史 著	加賀藩の会計係がつけていた詳細な自分の家の家計簿から幕末維新期の生活の歴史が見えてくる。日本史の時間にかけて足で習ったことが、具体的に見えてきて、楽しく実感できる。	新潮新書
	ひ め ゆ り の 沖 縄 戦 －少女は嵐のなかを生きた－ 伊波 園子 著	10代の少女たちが戦争のなかを生きた。激務が彼女たちを死の危険にさらす。米軍に追われ、ついに最南端まで追い詰められてゆく。18歳の一少女の目を通して、多数の住民を死に巻きこんだ沖縄戦の実相が浮かび上がる。	岩 波 ジュニア 新 書
	そうだったのか！現代史 パート1、パート2 池上 彰 著	民族紛争によるテロ事件、北朝鮮問題など、世界中から伝わってくるニュースの背後には、事件に至るまでの歴史がある。「知らない」ではすまされない現代史の基礎知識を、わかりやすく解説する。	集英社 文 庫
	風 景 学 ・ 実 践 篇 －風景をみききする－ 中村 良夫 著	著者は「制度化された」古典的風景にとらわれない、自らのうちに生成される風景の現場に読者を誘い、風景の愉しみ方を会得させてくれる。	中公新書
社 会 学	当 事 者 主 権 中西正司・上野千鶴子 著	障害者、女性、子ども、不登校者、患者など問題をかかえていると見なされている当事者たちが、「自分のことは自分で決める」と声を上げた。社会を組み替える、大胆な提言の書。	岩波新書

	書名・著者名	解説・紹介	発行所
社 会 学	貧 困 の 克 服 ーアジア発展の鍵は何かー アマルティア・セン著 大石りら訳	国連も注目する「人間の安全保障」という概念の可能性とは何か？また、「剥夺状態」「潜在能力」「人間の発展」といったキーワードが示唆する理想の経済政策とは？	集英社 新 書
	少 子 社 会 日 本 ーもう一つの格差のゆくえー 山田 昌弘 著	少子化がなぜここまで深刻化したのか。その決定的な理由を探るために、若者の不安定な職業状況、「パラサイト・シングル」の誕生、恋愛・結婚観の変容などを分析。少子化議論に一石を投じる書。	岩波新書
	い ま 平 和 と は ー人権と人権をめぐる9話ー 最上 敏樹 著	21 世紀に入っても武力紛争や大規模な人権侵害は止むことがなく、暴力と憎悪の連鎖が続いている。いかにすれば、人間は対立を超えて真に和解できるのだろうか。	岩波新書
	アフリカのいまを知ろう 山田 肖子 編	世界から大きく注目されているアフリカ。近現代史・政治・経済・社会・文化など、さまざまな分野の研究者へのインタビューで、アフリカの国と人々のダイナミックな魅力を知り、本当の支援について考える。	岩 波 ジュニア 新 書
	人 は 見 た 目 が 9 割 竹内 一郎 著	顔つき、仕草、目つき、におい、色、温度、距離など私たちを取り巻く言葉以外の膨大な情報をもつ意味を考える。心理学からマンガまで、あらゆるジャンルの知識を駆使した日本人のための「非言語コミュニケーション」入門。	新潮新書
	間の取れる人 間抜けな人 ー人づき合いが楽になるー 森田 雄三	「コミュニケーションの強迫観念」と「自分へのこだわり」を捨て、「間」と「沈黙」に腰を据えると、人付き合いはぐっと楽になるし、深くなる。本校卒業の名演出家が教える、古く新しい、日本人のコミュニケーション論。	祥伝社 新 書
	働 く っ て 何 だ ー30のアドバイスー 森 清 著	働くことの意味を考えながら、職業資格の生かし方、正社員と非正社員の違い、マニュアルの意義など、働くための基本的な知識を具体的に解説します。これから社会に出て行く若者のための働きかたマニュアル。	岩 波 ジュニア 新 書
	なぜ日本人は 学ばなくなったのか 齋藤 孝 著	近年、数字に顕著に現れている。日本の若者の学力低下、読書量の不足、意欲の衰退 ―――。萎縮する人間から「できる」大人になるための、強い教育力をとりもどすために必要な条件を提示する。	講 談 社 現代新書
	な ぜ 国 語 を 学 ぶ の か 村上 慎一 著	「日本語がちゃんとしゃべれるのに、どうして今さら国語を勉強しなければならないの？」古典や漢文を学ぶことに何の意味があるの？」国語が苦手できらいな人、いっしょに考えよう。	岩 波 ジュニア 新 書
	大学受験のための小説講義 石原 千秋 著	最近の入試問題の中から代表的な問題を選び、入試国語の隠されたルールを見つけながら、独自の読解法を伝授。小説の醍醐味を味わいたいと思っている人も必読。	ちくま 新 書
	カレーを作れる子は 算数もできる 木幡 寛 著	「なぜそうなるのか？」を問い、それを解決するための仮説や、具体的方法を考えることが 21 世紀に求められている学力。それに役立つ数学的な基礎・基本の親子のための練習帳。	講 談 社 現代新書
	ニ ッ ポ ン の 縁 起 食 ーなぜ「赤飯」を炊くのかー 柳原一成・柳原紀子 著	なぜ「赤飯」を炊くのか？なぜ「鯛の尾頭付き」を食べるのか？なぜ「餅」を掲ぐのか？年中行事や通過儀礼の美味しいしきたりを、料理・植物学・歴史の三方向から徹底考察する。	生活人 新 書 (NHK 出版)
	国 家 の 品 格 藤原 正彦 著	いま日本に必要なのは、議論よりも情緒、英語よりも国語、民主主義よりも武士道精神であり、国家の品格を取り戻すことであろう。すべての日本人に誇りと自信を与える。	新潮新書

	書名・著者名	解説・紹介	発行所
科学 学	科学の考え方・学び方 池内 了 著	“科学的に考える”とはどういうことだろうか？一線で活躍する宇宙物理学者が、研究の方法、最新のサイエンス・トピックを紹介。私たちの社会と科学の関係、科学の責任、理科を学ぶ意義を若い人たちに向けて語る。	岩波 ジュニア 新書
	99.9% は 仮説 —思いこみで判断しないための考え方— 竹内 薫 著	科学の基本は「世の中全部仮説にすぎない」ということ。常識、前例、先入観、固定観念にしばられた時に読むと、ものの考え方から世界の見え方まで変わるはず。	光文社 新書
	世にも美しい数学入門 藤原正彦・小川洋子 著	「数学」と聞くと、ただ数式が羅列してあるだけで無機的なものだと感じている人が多いのでは？ところが一度知ってしまうとこれ程美しい学問はない。	ちくま プリマー 新書
	アインシュタインが考えたこと 佐藤 文隆 著	光の速さで走りながら、光を見たらどう見えるのだろうか、アインシュタイン少年は考えた。そして大人になって、相対論を発表した。相対論によると、光に近い速さでは、時間がのびたり、長さがちぢんだりする。	岩波 ジュニア 新書
	化学・意表を突かれる身近な疑問 日本化学会 編	身近な事象の中から集めた化学に関する70の疑問を、親子の会話形式にしてやさしく解き明かす。素朴ながら虚を突く質問に化学の原理を踏まえ、丁寧に答える。	講談社 ブルー ボックス
	「退化」の進化学 犬塚 則久 著	サメの顎が退化した耳小骨、トカゲの目のなごりの松果体、舌にのこる「二枚舌」の痕跡、男にもある「子宮」など、祖先とは機能を変えたり、失ったりした器官をみれば、ヒトの進化の道をたどることができる。	講談社 ブルー ボックス
	欲望する脳 茂木 健一郎 著	欲望と欲望がぶつかり合うとき何が起きるのか。人は自らの欲望と、どう付き合いながら生きればよいのか。人気脳学者が具体例を挙げながら論ずる。	集英社 新書
	自分は死なないと 思っているヒトへ —知の毒— 養老 孟司 著	世の中が進歩すればするほど、人間が愚かになっていくのはなぜか？情報に振りまわされ、「時間」病にかかり、「知ること」の恐ろしさを顧みないカチンカチンの世界に生きる人間への警告。養老人間学の原点。	だいわ 文庫
	ぼくらの中の発達障害 青木 省三 著	発達障害とは病気なのか？人とのやり取りが苦手だったり、こだわりが強かったり、それらの特徴は誰のうちにでもあるのではないだろうか…。青年期精神医学を専門とする精神科医が、発達障害とは何かについて考える。	ちくま プリマー 新書
環境	新版 ごみから地球を考える 八太 昭道 著	「ごみゼロ社会」を目指すためにはどうすればよいのか。ごみ処理、リサイクル、エネルギーをはじめ、社会・経済とごみとの関係、温暖化ガスなどをわかりやすく解説。ごみが抱える問題とその将来を考える一冊。	岩波 ジュニア 新書
家庭	発酵食品礼讃 小泉 武夫 著	バター、チーズ、納豆、鰯節から火腿、野鳥の塩辛、珍酒まで、世界各地で伝承されてきた食生活にひそむ「発酵」というステキな智恵。	文春新書
産業	エビと日本人Ⅱ —暮らしのなかのグローバル化— 村井 吉敬 著	エビを通じて、私たちの食卓と世界との関係、グローバル化が日常的に浸透しているようすが立体的に浮かび上がる。	岩波新書
芸術・スポーツ	パール、コーヒー、イタリア人 —グローバル化もなんのその— 島村 菜津 著	なぜイタリアには、スタバもコンビニもシャッター通りもないのか？イタリアの象徴で、スタバ化・マクドナルド化に抵抗するパール（気軽に入れる立ち食い中心の店）の魅力を書き尽くす。	光文社 新書
	君はレオナルド・ダ・ヴィンチを 知っているか 布施 英利 著	偉大な科学者で、世界一の画家。現代人にも大きな魅力を与え続けるレオナルド・ダ・ヴィンチの足跡を、残された名画とメモを頼りに辿ってみよう。	ちくま プリマー 新書

推薦に当たって

- ◎ 評論・随筆といったジャンルのものに限って推薦しています。小説だけでなく、様々な分野の文章を、積極的に読むようにして下さい。
- ◎ 興味のある著者が見つかったら、ほかの著作にもぜひ触れて下さい。
- ◎ 推薦に当たっては、手に入りやすいようにとの配慮から、文庫・新書の類に限定してあるので、良書に触れる機会を増やして下さい。

	書名・著者名	解説・紹介	発行所
芸術・スポーツ	絵のある人生 －見る楽しみ、描く喜び－ 安野 光雅 著	いい絵とは何だろうか。プリューゲル、ゴッホらの興味深い逸話や自らの経験を語るとともに、これから絵を描いてみようとする人への具体的な手ほどきも行なう。	岩波新書
	超・美術館革命 －金沢21世紀美術館の挑戦 蓑 豊 著	一般になじみの薄い現代美術を扱う金沢の美術館に、わずか2年あまりで300万人以上もの人々が訪れた。美術館に革命を起こした「アイディアと情熱」をすべて紹介する。	角川 One テーマ21
	勝負脳の鍛え方 林 成之 著	緊張すると実力が出せない、競り合いになると弱い…。これらの負けパターンに陥る理由は、それを克服する脳の仕組み、勝負脳の使い方を知らないから。スポーツを例にとって、勝負脳を鍛え働かせるための方法を伝授する。	講談社 現代新書
言語学	記号論への招待 池上 嘉彦 著	広範な学問・芸術領域から注目を浴びている記号論。それは言語や文化の理解にどのような変革を迫っているのか。身近な日本語の表現を引きながらコミュニケーションのしくみに光をあて、その基本的な考え方を述べている。	岩波新書
	変わる方言 動く標準語 井上 史雄 著	現代日本語は千年で千キロ、日本列島を移動してきた。「動くものとしてのことば」を社会・歴史・地理の座標軸に位置づけなおす、壮大でスリリングな日本語論。	ちくま 新書
	日本語の歴史 山口 仲美 著	現代の日本語はどのようにして出来上がってきたのだろうか。やまとことばと漢字との出会い、日本語文の誕生、江戸言葉の登場…。「話し言葉」と「書き言葉」のせめぎあいからとらえた日本語の歴史。	岩波新書
	英語の歴史 寺澤 盾 著	英語の歴史や由来をもとに英語を学んでいくうえで、疑問に思ったことが解決する一冊。他にも発音や綴り字、人称代名詞の謎も少なからず書かれている。読んだ後に、プチ英語博士になったと思える本である。	中公新書
	文章読本 丸谷 才一 著	安易なハウ・ツー本になっていない点がすばらしい。多彩な名文を実例に引きながら、実作者の立場に立って、作文のコツを具体的に説く。作文の意欲をかきたてる名著。	中公文庫
	英語の論理 日本語の心 牧野 高吉 著	文化が違えば発想も違う。言葉は文化であり、外国語は異文化の言葉。2つの発想の違いを比較しながら、英語のセンスを身につける本。	ちくま プリマー 新書
	樋口一葉「いやだ!」と云ふ 田中 優子 著	24年の短い生涯に、近代文学に燦然と輝く名作を残して逝った樋口一葉。「いやだ!」といいながら、困難な時代に立ち向かった一葉の魂のメッセージを伝える評伝。	集英社 新書
文学	詩のころを読む 茨木 のり子 著	いい詩には、人の心を解き放つ力がある。また、生きとし生けるものへのいとおしみの感情をやさしく誘い出す。著者が、心を豊かにしつづけている詩の中から、忘れがたい数々を選び出し、その魅力を情熱をこめて語る。	岩波 ジュニア 新書